

数理政治学と計量政治学

1

笹岡伸矢（明治大学・広島修道大学）

1. 政治学の歴史と統計・数理

1950s



1960s

政治学の科学化・・・「**価値中立性**」
「**政治行動論**」(by イーストン)
→様々な隣接学問(統計学、心理学、社会学)の応用



公民権運動など→**価値問題重視**へ
→イーストン『**脱行動論革命**』
科学的厳密さく社会問題の解決

1. 政治学の歴史と統計・数理

1970s

合理主義的政治理論の登場
経済学的・数理的アプローチが政治学の有力な一分野に
→経済学者の政治問題への取り組みと、訓練を積んだ政治学者の登場

3

1980s—

↓
アメリカ政治学における数理・統計モデルの席卷
→日本にも波及

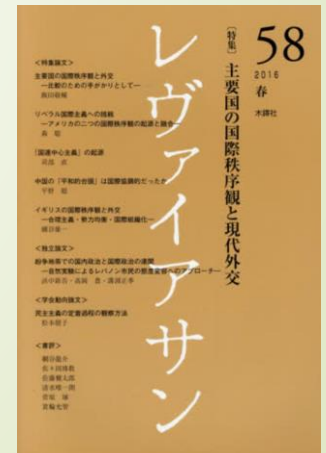
1. 政治学の歴史と統計・数理

2000s

アメリカ政治学における統計・数理モデルの分析への批判
「ペレストロイカ」運動



日本
統計・数理モデルを用いた分析は増大
例) 雑誌『レヴァイアサン』
まだ主流とはいえない



2. 政治学における統計・数理

数理政治学

ゲーム理論やフォーマルモデルを用いて、
政治現象のメカニズムを示す方法

計量政治学

5

政治現象を数量データを用いて分析する
方法

2. 政治学における統計・数理

2つの接続

数理政治学

ある政治現象のメカニズムを**数理モデル**で明らかにし、仮説を提示する

計量政治学

その仮説を**数量データ**を用いて検証する

3. 具体例

次に、報告者の専門である「比較政治学」
における統計・数理分析の事例を紹介する

比較政治学

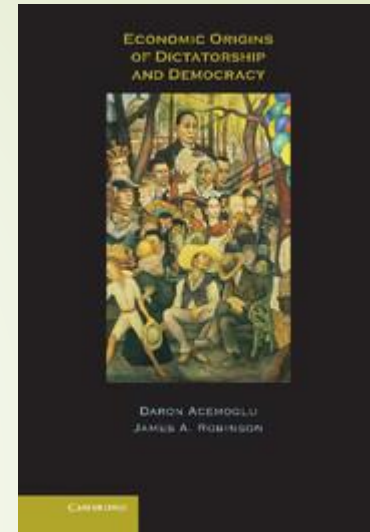
7

様々な国の国内政治における政治現象を
比較する学問

3. 具体例

数理政治学

Daron Acemoglu and James A. Robinson, *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*, (New York, NY: C. University Press, 2005)



8

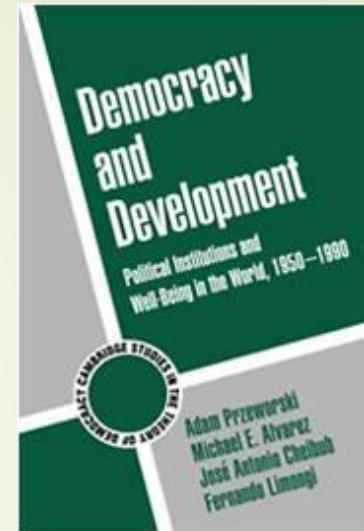
所得格差の違いが政治体制の違いをもたらすことをゲーム理論などで精緻化。

不平等が中程度の時に民主化が起こりやすく、不平等が大きすぎても小さすぎても民主化は起こりにくいとする「逆U字型」の変動を明示した。

3. 具体例

計量政治学

Adam Przeworski et al., Democracy and Development: Political Institutions and Well-being in the World, 1950-1990, (New York: Cambridge University Press, 2000).



9

経済発展すると民主化するという命題について検証。経済発展すると民主化するのではなく、民主化は経済要因以外でも起こるが、経済発展した国ほど民主制は崩壊しにくいことを、計量分析の結果、明らかにした。

4. 利点と問題点

利点

- 数理政治学では、様々な帰結を予測して、なぜそれが起こるのか、なぜこの帰結は起こりにくいのかを理解でき、ある現象のメカニズムの把握と決定論的解釈の批判が可能となった。
- 計量政治学では、印象論的議論を超えて、一般的な傾向の把握と、重要な要因の特定ができるようになった。

など

4. 利点と問題点

問題点

- 専門化が進み、誰もが理解できるものでなくなつた結果、違うアプローチの人との対話が難しくなつた。
- 出てくる結果について、それほど新しい発見がないとみなされている。
- 政治現象の多くが数値化できないので、それが可能な分野の研究は進むが、それ以外は顧みられない。

など

5. おわりに

今後、数理・統計の技術を身に付けた政治学者が増えたり、経済学者が政治現象を積極的に扱ったりすることで、この種の研究は増えていくと予想される。

それでも、この種のアプローチを用いない研究者も急激に減ることもない。

必要なのは、それぞれのアプローチの尊重と、分析結果の比較で議論する文化を醸成することではないか。